

例会「渡良瀬遊水池&古河名所巡り」報告

開催日：2022年11月2日(水)	集合場所：JR宇都宮線野木駅西口	
集合時間：9時15分～9時30分	開会式：9時30分～9時45分	終了後スタート
コース・距離：野木駅→なまいふるさと公園→谷中橋→渡良瀬遊水池ウオッチングタワー→ 谷中村史跡保存ゾーン→谷中湖→道の駅かぞわたらせ→古河歴史博物館→ 鷹見泉石記念館→古河駅 21km		
ゴール時間：野木駅 15時10分		
参加者：19名(会員17名)	天候：晴、無風	

ウォーキング状況等

渡良瀬遊水池は東京から60kmの距離にある日本最大の遊水池(3,300ha、涸沼の約1/3)で、茨城、栃木、群馬、埼玉の4県にまたがっています。1,500haに及ぶヨシの湿地には多くの動植物が生息しており、2012年ラムサール条約登録湿地に認定されました。渡良瀬遊水池には堤防で仕切られた第1～3調節池がありますが、今回は野木駅から第2調節池へ、さらに谷中湖がある第1調節池を歩き、古河名所巡りで締めくくるコース。風光明媚な渡良瀬遊水池には、洪水と鉍毒被害の歴史もあります。その変遷を顧みながら楽しく歩く、ちょっと長めの例会です。

ウォーキング日和のためか、遠地にもかかわらず多くの参加者が来られました。開会式を終え、野木駅前西大通りを20分程歩き、思川にかかる橋を渡ると、そこはもう渡良瀬遊水池の入り口。しばらく歩いてコウノトリの人工巣塔が見える生井ふるさと公園で小休止。その後、富士山・筑波山を見ながら、巴波(うずま)川・渡良瀬川沿いを歩き、新赤麻橋・谷中橋を渡って渡良瀬遊水池ウオッチングタワーに着いた。タワーに上り、渡良瀬遊水池全域及び関東平野を眺望しながら休憩・昼食後、谷中村史跡保全ゾーン(役場跡、延命院跡等)へ向かう。

史跡保存ゾーンでは、現地ボランティアガイドによる案内・説明を受けることができました。予約なしに対応して頂いたガイドさんに感謝感激です。その後、紅葉が始まりかけた景観に癒されながら中の島経由で対岸の「道の駅かぞわたらせ」に着き、休憩タイム。歩くのが困難になった方には最寄りの東武線柳生駅を利用してもらうことを検討しましたが杞憂でした。全員で平地では珍しい栃木・群馬・埼玉の三県境を経由して古河市を目指す。三国橋を渡ると、古河市街地でゴールも近いと元気づけられる。古河城址「獅子ヶ崎」、その出城跡にある歴史博物館、鷹見泉石記念館等の名所を巡りして、古河駅に到着しました。

関東平野のど真ん中にある渡良瀬遊水池。その広大な湿地帯の中を歩くのは、霞ヶ浦、涸沼など湖畔を歩くのとは違ったウォーキングの醍醐味ではないでしょうか。四季折々の適当な時期に改めて仲間と一緒に歩いてみたいとつぶやいていた参加者の方もいました。本コースは日本市民スポーツ連盟(IVV-Japan)から承認頂いた水郷つくば・土浦ウォーク(STTW)^{注)}としてのコース作りも計画していますので、都合で参加出来なかった方も含め、いつでも都合の良い時にご利用ください。詳細はホームページの「STTウォーク」をご参照願います。(戸田)

注) スマホのグーグルマップ(コース、自分の現在位置を確認できる)を利用し、LINEを通して指導者(事務局)と連携しながら歩くものです。必要な手続きをすることにより、IVVを受領できます。